

## 平成 27 年を迎えて

指導部義務教育特別支援教育指導課長 安間 英潮

平成 27 年を迎え、早くもひと月が経とうとしています。各学校におかれましては、年度末に向けての総仕上げの時期に入り、活気に満ちた学校生活が送られていることと存じます。残り 2 か月をどのように過ごすかによって、子供たちの進級・進学に向けた意欲や期待も大きく変わってきます。全ての子供たちが不安なく新年度を迎えられるよう、先生方の一層の御尽力をお願い申し上げます。

さて、5 年後の 2020 年、オリンピック・パラリンピックが東京を舞台として開催されることを契機に、東京には、より一層世界に対して開かれた都市となっていくことが期待されています。そしてその実現のために、今、私たちには、おもてなしの心に代表される日本人らしさをしっかりと身に付けた人、国際社会の一員として世界の発展に寄与できる人を育てていくことが求められています。2020 年を通過点として、さらにその 10 年先、20 年先の東京を真に成熟した都市として創り上げ、支えていくのは、今、私たちの目の前にいる子供たちなのです。

東京都教育委員会はこれまで、「社会人（大人）になったときに困らないための力」を、東京の全ての子供たちに身に付けさせることを使命とし、様々な施策を実施してきました。本号で紹介している「東京ベーシック・ドリル」もその一つです。「東京ベーシック・ドリル」を活用していただくことで、教科書の例題にあるような各教科の基本となる問題について、義務教育修了までに東京都の全ての子供たちが「できる」「わかる」ようになることを目指しています。

見通しをもって直面する課題を解決するための思考力と、その基盤となる、英語を含めた「よみ・かき・そろばん」の力が身に付いている。よりよく生きていこうとする強い意志をもっている。元気に生きていくためのたくましい体力が備わっている。そして、「やればできる」という自信と意欲に満ちあふれている。そのような子供たちを育てていくための各学校の教育活動を、今年も全力で支援してまいります。

本年も、都教育委員会の諸事業に、御理解と御協力を賜りますよう、お願いいたします。

### 目次

- いよいよあと 2 か月！小学校算数習熟度別指導の準備はいかがでしょうか？ …………… 2
- 道徳教育の窓 ～東京の子供たちの豊かな心を育む～ …………… 4

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存知ですか？

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。ぜひ、御覧いただき、参考にいただければと思います。なお、本通信のバックナンバーも、順次「学び応援ページ」に掲載しています。

（東京都教育委員会ホームページアドレス）  
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）

**学び応援ページを御活用ください！**  
**東京ベーシック・ドリルも**  
**掲載しています！**

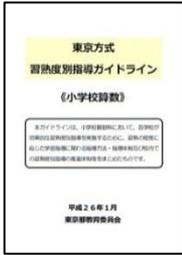
東京都教育委員会ホームページ・トップページ  
の下の方に、このバナーがあります！



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

# いよいよ！あと2か月！

## “小学校算数習熟度別指導”の準備はいかがでしょう



平成27年度から、小学校の算数において「東京方式 習熟度別指導ガイドライン」に基づいた学習が全面实施となります。  
ガイドラインの18ページにある、「実施状況チェックリスト」を活用して、現在の進捗状況をチェックしながら準備を進めてください。

項目	実施状況
1. 習熟度別指導の推進	○
2. 習熟度別指導の実施	○
3. 習熟度別指導の推進	○
4. 習熟度別指導の実施	○
5. 習熟度別指導の推進	○
6. 習熟度別指導の実施	○
7. 習熟度別指導の推進	○
8. 習熟度別指導の実施	○
9. 習熟度別指導の推進	○
10. 習熟度別指導の実施	○
11. 習熟度別指導の推進	○
12. 習熟度別指導の実施	○
13. 習熟度別指導の推進	○
14. 習熟度別指導の実施	○
15. 習熟度別指導の推進	○
16. 習熟度別指導の実施	○
17. 習熟度別指導の推進	○
18. 習熟度別指導の実施	○

ガイドラインには、具体的な目標として、次の2点が設定されています。

《 習熟度別指導実施における必須事項 (3) 具体的な目標 (達成水準) の設定について 》

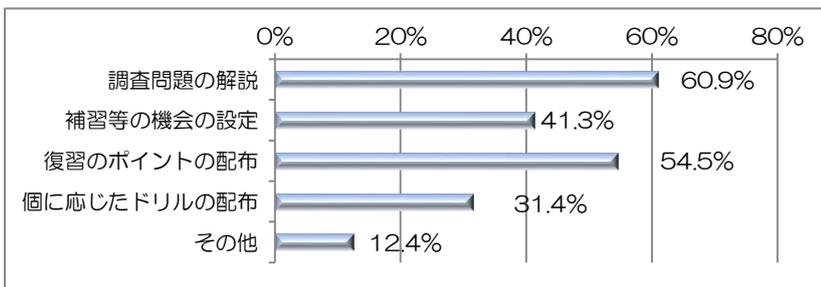
- ① 小学校卒業までに、東京ベーシック・ドリルを全員がクリアする。
- ② 小学校卒業までに、都の学力向上を図るための調査(小5)の目標値を全員がクリアする。

この目標を達成するためには、東京ベーシック・ドリルの診断シートを年間複数回活用しての現状把握や効果検証、また、調査問題を再活用しての補充的な学習などを意図的・計画的に取り入れていく必要があります。

昨年11～12月に開催しました、都内の小学校教員を対象とした「平成26年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果説明会において、調査問題の結果や東京ベーシック・ドリルの活用についてアンケートを行ったところ、以下のような結果となりました。

### ◆小学校アンケートより

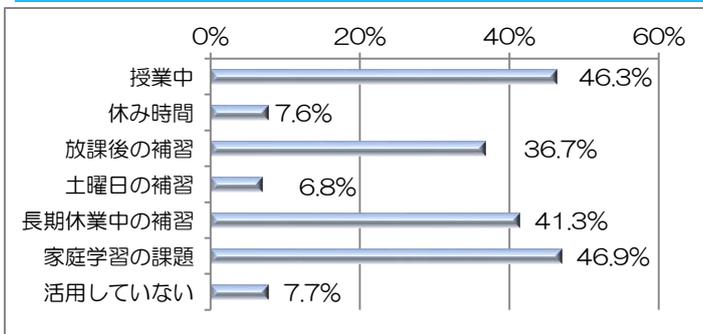
#### ○調査結果を児童に返却する際に行ったこと(複数回答)



＜その他の内容＞

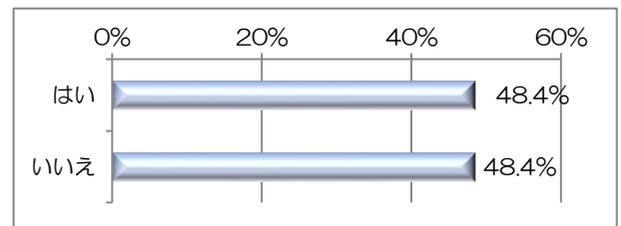
- ・保護者会等で保護者に周知した。
- ・面談で説明をして保護者に渡し、立ち戻るポイントを伝えた。
- ・間違えの多い問題に全員で取り組ませた。
- ・授業づくりに生かした。 など

#### ○ドリルを活用している場面(複数回答)



#### ○ドリル「診断シート」の活用について

東京ベーシック・ドリルの「診断シート」を用いて、個々の児童の定着状況を把握していますか。



#### ＜アンケート調査の段階では…＞

調査問題を返却する際に「復習のポイント」を配布したり、補習や個に応じたドリルの配布によって補充的な学習を行ったりした小学校は、多いとは言えない状況です。児童自身がどこを学習し直せばよいのか、立ち戻るべきポイントが分からなければ、その後の補充学習へと進めさせることはできません。

ドリルの活用がされていない小学校は7.7%、診断シートを活用していない小学校は約半数という状況でした。



今年度は準備期間ではありますが、前ページのアンケート結果から、各小学校における調査問題や東京ベーシック・ドリルの診断シートの活用は、十分とは言えない状況であることが分かりました。

小学校卒業までにガイドラインの具体的な目標を達成するためには、低学年の段階から「その学年の学習内容は、その学年の終わりまでに必ず定着させる！」という目標と計画を立てて取り組む必要があります。

下に達成までの計画例を示しました。参考にしてください。



月	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年			
4		前学年のベーシック・ドリル診断シートAの実施(実態把握)				全国学力・学習状況調査実施			
5	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-start;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="width: 15px; height: 15px; background-color: #00bfff; margin-right: 5px;"></div> <span>東京ベーシック・ドリルの活用</span> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="width: 15px; height: 15px; background-color: #90ee90; margin-right: 5px;"></div> <span>児童・生徒の学力向上を図るための調査の活用</span> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 15px; height: 15px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; margin-right: 5px;"></div> <span>全国学力・学習状況調査の活用</span> </div> <p>※空白部分は、ドリル等を使用した学力向上への取組を行います。</p> </div>				平成27年度調査は、理科も実施されます。理科のドリルも御活用ください！		前年度都調査問題等による定着度の確認		
6								都調査実施	
7									
8					夏季休業中の補習等におけるベーシック・ドリルの活用				
9					採点・分析	全国調査結果公表・分析			
10		前学年のベーシック・ドリル診断シートBの実施(経過確認)				4年生診断シートAの実施			
11									
12	1年生診断シートBの実施				調査問題のできなかった問題を選択実施	ここで目標達成！			
1						前年度都調査問題等による定着度の確認			
2	1年生診断シートCの実施	前学年のベーシック・ドリル診断シートCの実施(効果検証)					4年生診断シートBの実施		
3		当該学年のベーシック・ドリル診断シートCの実施							
	春季休業中の補習等におけるベーシック・ドリルの活用								

診断シートA～Cを有効に活用して、児童の学習定着状況を把握し、つまずきの箇所に応じてドリルを使用していくなど、個に応じた指導を計画的に進めましょう。「10月までに75%、年度末には95%の児童が達成」というように、具体的な目標値を設定することが必要です。

調査問題についても、できなかった問題を中心に学習し直す時間を確保しましょう。実態に合わせて1問選び、授業で出題して考えさせるなど、活用方法を工夫していくことが大切です。

# 「道徳教育の窓」

— 東京の子供たちの豊かな心を育む —

## 平成26年度 道徳授業地区公開講座の取組を紹介します！

東京都では、学校、家庭及び地域社会が連携して子供たちの豊かな心を育むとともに、小・中学校等における道徳教育の充実を図ることを目的として、区市町村教育委員会の協力により、平成14年度以降、都内全ての区市町村立小・中学校で実施しています。

### 他校の様々な取り組みを参考に！

道徳授業地区公開講座に参加した都民の方から、参加して本当によかったとの意見を数多くいただいております。その一方で、意見交換会については、「発言を必ず求められそうで出席しにくい。」などの声も聞かれます。

この意見交換会の改善・充実や、「東京都道徳教育教材集」と国の「私たちの道徳」の活用

の推進を図るため、本年度より、学校の準備段階から当課担当指導主事が道徳授業地区公開講座の改善・充実に向けた取組を支援するとともに、他の学校の参考となるよう、学校の取組について、広く紹介していくこととしました。

道徳授業地区公開講座を改善・充実させていくためには、道徳教育推進教師を中心としたプロジェクトチームによる取組や全教職員の共通理解に基づいた組織的な推進などが重要です。さらに、なんとといっても、道徳授業地区公開講座は都内の全小・中学校で実施しているわけですから、各地区内、また地区を超えて、他校の様々な取組を参考にしていくことが大切です。ここで、各学校の取組例のいくつかを紹介します。

#### 平成26年度 道徳授業地区公開講座 実施校数

・区市町村立小学校、中学校及び中等教育学校	1,914校
(全校・全学級で授業公開を実施)	
・都立中学校及び中等教育学校	10校
(全校・全学級で授業公開を実施)	
・区立特別支援学校	3校
・都立特別支援学校	24校
計	1,951校

平成26年度は、1,951校が実施！

### 道徳授業地区公開講座の取組例

#### 【公開講座のテーマ設定の例】

全学級で「東京都道徳教育教材集」や「私たちの道徳」を活用して…

- 「社会をよりよくしていこうとする心を育てるために大人ができること」
- 「豊かな心を育てるための『大人⇄子供』関係の在り方」
- 「〇〇小の子供たちの心と生活習慣」
- 「いじめ防止に向けて私たち大人ができること」 など

#### 【意見交換会の例】

- 講演会の後、ワールドカフェスタイルで語り合う
- 保護者、地域の方によるパネルディスカッション
- 子供の視点になって、大人や社会について考えてみる、体験的なワークショップ など



### 道徳授業地区公開講座終了後のアンケートから

- ◆「道徳の授業で、優しく思いやりのある子に育つきっかけ作りをして頂いているように感じた。」
- ◆「学校での指導の方向性を知り、家庭でも同様の関わり方をしていけばよいと分かり、勉強になりました。」
- ◆「子供の意見をきちんと受け止めることが、子供自身の安心感につながる事が分かりました。」
- ◆「先生方と保護者が、同じ大人という視点のテーマで、普段の子供の様子から話し合えて有意義でした。」
- ◆「普段、保護者同士であまり話題にしないことについて話せたので、いろんな考えがあることに気づき勉強になりました。」 など